

# 埼玉県地球温暖化対策推進条例 に基づく公表

令和6年



**Saiden**

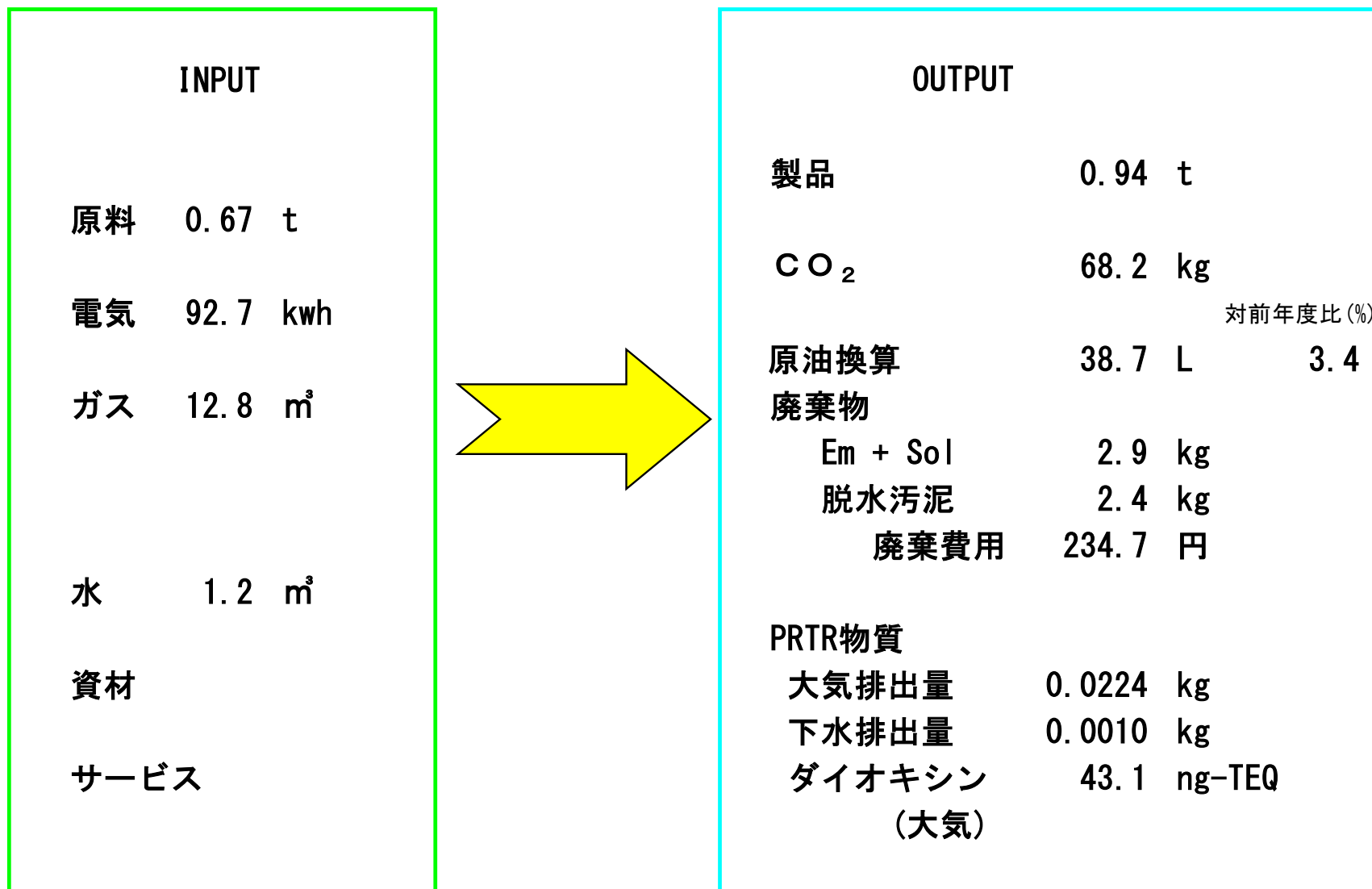
サイデン化学株式会社

# 2023年度サイデン化学 環境パフォーマンス

2024.07.01

<生産量1トン当たりの環境バランス>

ISO14001事務局



令和 6 年度

## 地球温暖化対策計画・実施状況報告

## 1 地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 事業者の類別

類別	(類別の説明)
I類	A事業所のみを有する特定事業者
II類	B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
III類	C事業所を有する特定事業者
IV類	任意事業者

## (2) 地球温暖化対策事業者

事業者名	サイデン化学株式会社			
所在地	東京都中央区日本橋本町3-4-7			
事業者番号	0082			
燃料等使用量の原油換算の合計量 (前年度)	1,750	kL/年		
大規模小売店舗面積 (単独で1,500kL未満で延床面積10,000㎡以上の事業所)		㎡		
産業分類名 (中分類)	16 化学工業			
分類番号 (中分類)	16			
事業活動の概要	事業内容	接着剤、塗料、粘着剤、各種のコーティング用途に用いられる水系エマルジョン及び、溶剤系、ゾル系の合成樹脂製品の製造・販売		
	区分	企業		
	前年度	資本金	300	百万円
		従業員数	311	人
商標又は商号 (連鎖化事業者のみ)				

## (3) 県内に設置している事業所

(自動転記)

事業所種別	事業所番号	事業所名	前年度の原油換算エネルギー使用量(kL)
A、Bテナント等事業所			
A	008200	サイデン化学株式会社 浦和工場	329
B、C事業所			
C	008201	サイデン化学株式会社 東京工場	1,421
合 計			1,750

## (4) 公表方法

○	インターネット利用による公表	アドレス	<a href="http://www.saiden-chem.co.jp/">http://www.saiden-chem.co.jp/</a>
○	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合は別様としてください)	閲覧場所 1	サイデン化学株式会社 東京工場
		所在地 1	さいたま市桜区大字下大久保1280番地1
		閲覧可能時間 1	休業日を除く平日 8:30~17:30
		閲覧場所 2	
		所在地 2	
	その他		

## (5) 公表の担当部署

	名称 (複数可)	連絡先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	生産本部 品質保証部	048-852-1711	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

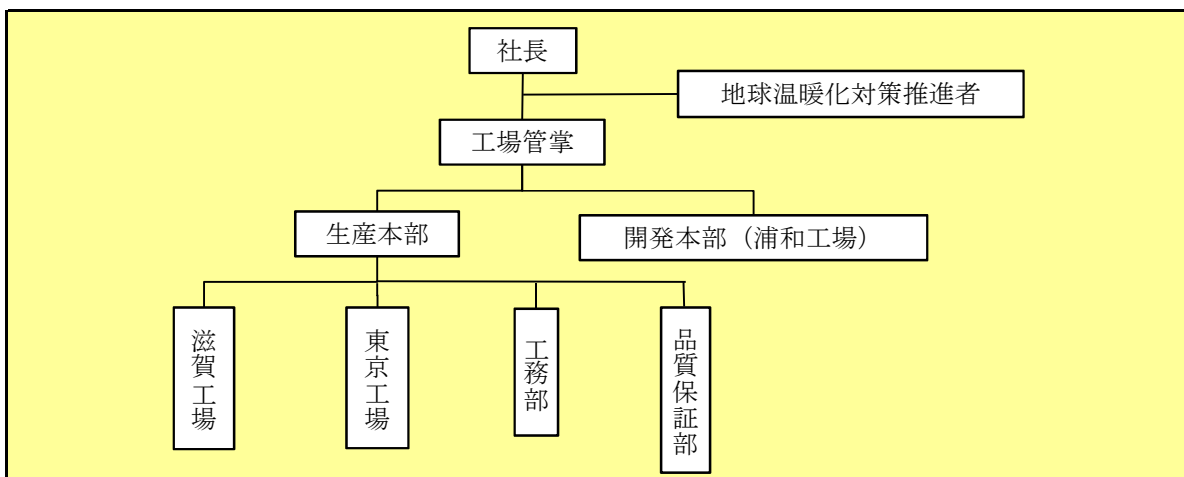
サイデン化学環境方針

地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、従業員一人一人が「地球に優しい心を持つ」ことを始めとして、当社の主力製品である環境に優しい「合成樹脂エマルジョン」等を通じて環境問題に取り組み、地球環境の保全に寄与する活動をめざす。また、従業員は家庭に於いても省エネルギー、省資源、リサイクルに努める。そのため、以下の『環境方針』を定める。

1. 地球環境の保全と生態系の保護を配慮し、省エネルギー、省資源、リサイクルを念頭に置き、常に改善に努める。
2. 環境に負荷の少ない製品開発と、製品の開発から廃棄に至るまでの全段階にわたり、環境負荷の低減に努め、汚染の予防を図る。
3. 当社は環境側面にかかわる適用可能な法規制および当社が同意するその他の要求事項を遵守する。

2006年3月20日 社長 籠島嘉隆

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制



4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

CO<sub>2</sub>換算（t-CO<sub>2</sub>）

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	3,864	3,851	3,483	3,413	3,484
その他ガス					
温室効果ガスの計	3,864	3,851	3,483	3,413	3,484

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 6 年度

事業者番号	0082	事業所番号	008200
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 原油換算エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所(合算)
A	

(2) 事業所及び事業内容

代表事業所名	サイデン化学株式会社 浦和工場	前年度における事業所数	1
代表事業所所在地	市区町村	さいたま市南区	
	字・地番	辻7-14-2	
当該事業所を含む事業所の名称 (※Bテナント等の場合のみ記入)			
産業分類名(中分類)	16 化学工業		
分類番号(中分類)	16		
事業活動の概要	接着剤、塗料、粘着剤、各種のコーティング用途に用いられる水系エマルジョン及び、溶剤系、ゾル系の合成樹脂製品の開発・試験製造		

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	
	平成31年度の原単位(■ ■ ■)を基準として、前年度比1%ずつ改善する。				
	その他ガス				

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準となる排出量	t-CO <sub>2</sub>	基準となる原単位	
	その他ガス				

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	サイデン化学株式会社 浦和工場	さいたま市南区辻7-14-2
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

## 3 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	335	322	335	329	

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	基準	計画期間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>		653	628	653	642	
前年度比 (%)		—	-3.8	4.0	-1.7	
基準となる排出量に対する削減率 (%)						
その他ガス	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		653	628	653	642	

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	基準	計画期間				
		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位						
前年度比 (%)		—	-7.2	5.8	-0.8	
基準となる原単位に対する削減率 (%)		0.7	7.9	2.5	3.3	
活動規模の指標単位						

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	浦和工場は開発施設のため、開発テーマ数、内容によって大きく左右される。2020年度はCO <sub>2</sub> 排出量が増加しているが、これは開発テーマ数の増加によると考えられる。又、原単位では減少しているが、効率向上というよりは従業員数が増加した影響が大きい。
令和3年度 (2021年度)	浦和工場は開発施設のため、開発テーマ数、内容によって大きく左右される。2021年度はCO <sub>2</sub> 排出量が減少しているが、これもバラツキの範疇と考える。
令和4年度 (2022年度)	浦和工場は開発施設のため、開発テーマ数、内容によって大きく左右される。2022年度はCO <sub>2</sub> 排出量が増加しているが、これもバラツキの範疇と考える。
令和5年度 (2023年度)	浦和工場は開発施設のため、開発テーマ数、内容によって大きく左右される。2023年度はCO <sub>2</sub> 排出量が減少しているが、これもバラツキの範疇と考える。
令和6年度 (2024年度)	

## 4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	360700	ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	コンプレッサーの運転最適化【毎年継続】	R1以前	R1以前	
2	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	ボイラーの運転最適化【毎年継続】	R1以前	R1以前	
3	320200	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	冷水発生器の導入及び運転管理。温度管理及び深夜電力利用の運転を優先。	R1以前	R1以前	
4	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	研究所、事務所のエアコンの温度管理。室温設定の遵守：夏季 28℃ 冬季 22℃【毎年継続】	R1以前	R1以前	
5	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	無人箇所の消灯管理、休憩時間の消灯管理の徹底【毎年継続】	R1以前	R1以前	
6	310100	一般管理事項	31_推進体制の整備	毎週水曜日ノー残業デー【毎年継続】	R1以前	R1以前	
7	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	触媒燃焼式脱臭装置の運転最適化【毎年継続】	R1以前	R1以前	
8	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	研究室エアコンの更新	R2	R2	
9	370700	電動応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	老朽化した試験機器の更新	R2	R2	
10	370700	電動応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	老朽化した試験機器の更新	R3	R3	
11							
12							
13							
14							
15							

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

A事業所

（※希望者のみ記載）

## 自由記述欄

## 1) ISO14001の取得

弊社は平成18年10月20日にISO14001を取得し、全組織で環境問題に取り組み地球温暖化防止対策、省エネルギー対策、廃棄物の削減などに取り組んでいる。

## 2) 循環冷却水（工程水）

- ・チラーユニットの温度設定遵守（23℃運転、20℃停止により電気使用量削減）
- ・深夜電力利用の運転を優先。

## 3) 各動力機器の運転最適化（動力使用時間の削減）

- ・むだな運転を止め、節電に努める。

## 4) 自然エネルギーの利用

- ・平成21年に太陽光発電設備（16kWh）を導入。

## 5) 節電の徹底

- ・環境巡視：休憩中等の消灯。
- ・エアコン室温設定の遵守： 夏季 28℃ 冬季 22℃

## 6) 毎週水曜日ノー残業デー

1)～6)の取り組みにより徹底的に無駄を排除し、さらに全社を挙げて地球温暖化防止に取り組む。

サイデン化学浦和工場は研究所として機能しており、実験機器を多数使用している。

今後も環境配慮型製品開発のために新規の機器を導入することになるが、今まで以上に実験機器の効率的な使用と、さらに無駄の排除に取り組む必要がある。

令和 6 年度

事業者番号

0082

事業所番号

008201

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	サイデン化学株式会社 東京工場		
事業所所在地	市区町村	さいたま市桜区	
	字・地番	大字下大久保1280番地1	
産業分類名(中分類)	16 化学工業		
分類番号(中分類)	16		
事業活動の概要	事業内容	接着剤、塗料、粘着剤、各種のコーティング用途に用いられる水系エマルジョン及び、溶剤系、ゾル系の合成樹脂製品の製造、従業員数：113人	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を15%以上とする。(必要に応じて排出量取引を活用する)			
	その他ガス				
エネルギー起源CO <sub>2</sub> の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	20,259	t-CO <sub>2</sub>		
	削減目標量(計画期間合計)	3,576	t-CO <sub>2</sub>	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	～	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO <sub>2</sub> (必須)				
	その他ガス				

## 3-1 事業所の温室効果ガス排出量

## (1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,646	1,652	1,450	1,421	

## (2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO <sub>2</sub>	3,211	3,223	2,830	2,771	
前年度比 (%)	—	0.4	-12.2	-2.1	
その他ガス	非エネルギー起源 CO <sub>2</sub>				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六フッ化イオウ				
	三フッ化窒素				
温室効果ガスの合計	3,211	3,223	2,830	2,771	

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO<sub>2</sub>）CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位					
前年度比 (%)	—	-1.9	0.1	3.0	
活動規模の指標単位					

(4) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	C02排出量は減少したが、生産量原単位では増加した。これはコロナ禍の影響により生産量が減少したため、生産効率が低下したものと考えられる。
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	昨年に比べ生産量は増加したがCO2排出量は同等であった。エネルギー使用量の異なる製品を多種製造しているため誤差の範囲とも考えられるが、循環冷却水用濾過設備設置の効果の可能性も有る。
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	生産量の減少に伴いCO2排出量も減少した。但し生産量原単位の増加がみられなかった。生産設備以外にも工場を稼働させるための生産量に依存しない一定のエネルギー消費があるため、生産効率の悪い製品比率の減少により、生産設備のエネルギー効率が改善し、原単位の増加が起きなかったものと考えられる。
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	C02排出量は減少したが、生産量原単位では増加した。これは生産量が減少したため、生産効率が低下したものと考えられる。
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	4,767	t-CO <sub>2</sub> /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO<sub>2</sub>)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	4,767	4,767	4,767	4,767	4,767	23,835
	目標削減率の 緩和措置	中小企業等	中小企業等	中小企業等	中小企業等	中小企業等	
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	15.00%	15.00%	15.00%	15.00%	15.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						20,259
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						3,576
実 績	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量(E)	3,211	3,223	2,830	2,771		12,035
	削減率 (F = (A - E) / A)	32.64%	32.39%	40.63%	41.87%		—
	排出削減量 (G = A - E)	1,556	1,544	1,937	1,996		7,033
各年度の排出量の検証		実施済	実施済	実施済	未実施		

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)	
	区 番	分 号	区 分 名 称					
			大 区 分 中 区 分					
1	320200		ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	冷水発生器の運転管理。温度管理及び深夜電力利用の運転を優先。冷水需要量に応じ、昼間の運転を台数制御。 【毎年継続】	R1以前	R1以前	
2	330200		空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	事務等エアコンの温度管理。温度設定の遵守：夏季 28℃ 冬季 22℃ 【毎年継続】	R1以前	R1以前	
3	380700		照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	無人箇所の消灯管理、休憩時間の消灯管理の徹底。【毎年継続】	R1以前	R1以前	
4	320400		熱交換器等	32_廃熱の回収利用に関する措置	コンプレッサーの排熱を利用して、ボイラー給水の余熱に利用。【毎年継続】	R1以前	R1以前	
5	360700		ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	純水装置の逆浸透膜フィルターの交換により、今まで使用していたポンプ汲み上げ井戸水の使用水量を3割削減。	R1以前	R1以前	
6	370700		電動応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	製造設備攪拌機用モーターのインバーター化。	R1以前	R1以前	
7	320200		ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	循環冷却水用濾過設備導入	R3	R3	
8	310300		一般管理事項	31_計測及び記録の管理	工場単位で電力計を設置	R5	R5	
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								

## 5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

## 自由記述欄

## 1) ISO 14001の取得

弊社は平成18年10月20日にISO 14001を取得し、全組織で環境問題に取り組み地球温暖化防止対策、省エネルギー対策、廃棄物の削減などに取り組んでいる。

## 2) 循環冷却水 (工程水)

- ・チラーユニットの温度設定遵守 (13℃→15℃により電気使用量削減)
- ・深夜電力利用の運転を優先。冷水需要量に応じ、夏場に昼間の運転台数を制御。温度状況により10/20台と半分の台数で対応。  
なお平成28年度に最新のチラーユニットに入れ替えた。

## 3) 反応及び配合時間の削減 (動力使用時間の削減)

- ・むだな攪拌運転を止め、節電に努める。
- ・スケールアップ/ダウンにより適正な生産量で、生産効率アップを図る。

## 4) 節電の徹底

- ・環境巡視：休憩中等の消灯チェックを実施。(1回/月)
- ・事務棟エアコン温度設定の遵守：夏季 28℃ 冬季 22℃

1)～4)の取り組みにより徹底的に無駄を排除し、さらに全社を挙げて地球温暖化防止に取り組む。

サイデン化学東京工場はメイン生産工場であり全社の約半分強のCO2排出量がある。省エネタイプの機器導入と更新を今後も積極的に行う。

さいたま市生活環境の保全に関する条例  
(さいたま市環境負荷低減計画制度)  
に基づく公表

令和6年



サイデン化学株式会社

令和 6 年度

事業所番号 1015

さいたま市 環境負荷低減計画

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	1 年間原油換算使用量1,500kℓ以上の事業所 2 大規模小売店舗のうち、店舗面積が5,000㎡以上である事業所
<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1</span>	

(2) 事業所及び事業内容

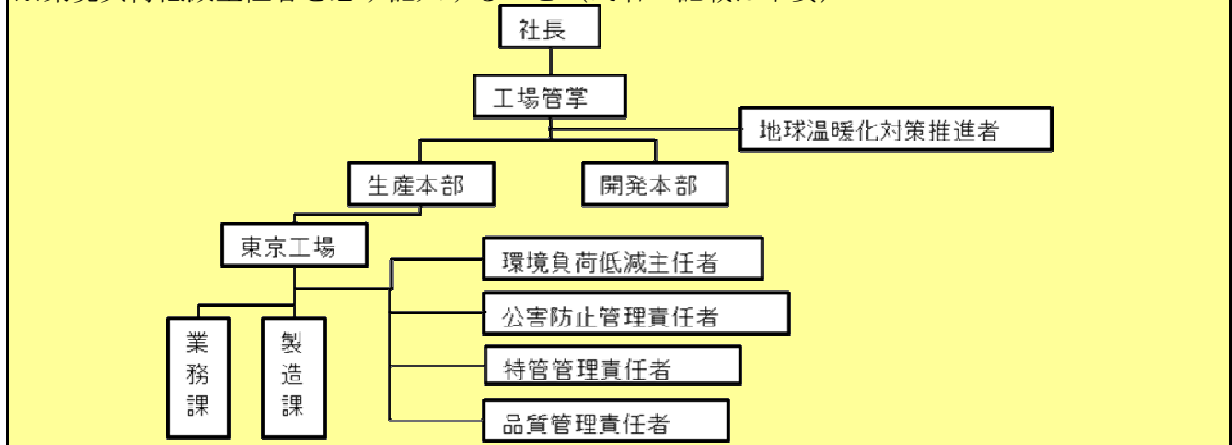
事業所名	サイデン化学株式会社 東京工場		
所在地	埼玉県さいたま市桜区大字下大久保字拾石田1280-1		
エネルギー 原油換算使用量 (kℓ)	2023(令和5)年度	2022(令和4)年度	2021(令和3)年度
	1,420	1,451	1,651
産業分類名 (中分類)	化学工業		
分類番号 (中分類)	16		
事業活動の概要  (従業員数、敷地面積、 延べ床面積等)	接着剤、塗料、粘着剤、各種のコーティング用途に用いられる水系エマルジョン及び、溶剤系、ゾル系の合成樹脂製品の製造 従業員数 : 108人 敷地面積 : 30,514㎡ 延べ床面積 : 12,047.14㎡		

2 事業所の環境方針

サイデン化学環境方針  地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、従業員一人一人が「地球に優しい心を持つ」ことを始めとして、当社の主力製品である環境に優しい「合成樹脂エマルジョン」等を通じて環境問題に取り組み、地球環境の保全に寄与する活動をめざす。また、従業員は家庭に於いても省エネルギー、省資源、リサイクルに努める。そのため、以下の『環境方針』を定める。  1. 地球環境の保全と生態系の保護を配慮し、省エネルギー、省資源、リサイクルを念頭に置き、常に改善に努める。 2. 環境に負荷の少ない製品開発と、製品の開発から廃棄に至るまでの全段階にわたり、環境負荷の低減に努め、汚染の予防を図る。 3. 当社は環境側面にかかわる適用可能な法規制および当社が同意するその他の要求事項を遵守する。  <p style="text-align: right;">2006年3月20日 社長 籠島嘉隆</p>
--

3 事業所の地球温暖化対策における推進体制

※環境負荷低減主任者を必ず記入すること（氏名の記載は不要）



4 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 削減目標

計画期間		2024(令和6)年度 ~ 2026(令和8)年度		
基準年度 (2013年度から前々年度の間で 任意の年度を設定)		2018年度		
削減目標	目標ベース (必須)	温室効果ガス排出量 (原則こちら)	<input checked="" type="radio"/>	
		排出量原単位	<input type="radio"/>	
	温室効果ガス 合計 (必須)	活動規模の指標	指標	
		基準年度の値		
	エネルギー起源 CO <sub>2</sub> (必須)	基準排出量： 2026年度までに	3413	t-CO <sub>2</sub> として、 15%を削減する。
		基準排出量原単位： 2026年度までに	15	t-CO <sub>2</sub> として、 %を削減する。
	非エネルギー 起源CO <sub>2</sub> (該当する排出が ある場合)	基準排出量： 2026年度までに	3,413	t-CO <sub>2</sub> /指標として、 15%を削減する。
		基準排出量原単位： 2026年度までに		t-CO <sub>2</sub> として、 %を削減する。
	その他 温室効果ガス (年間3,000t-CO <sub>2</sub> 以上排出している 場合)	種類：		
		基準排出量： 2026年度までに		t-CO <sub>2</sub> として、 %を削減する。
		基準排出量原単位： 2026年度までに		t-CO <sub>2</sub> として、 %を削減する。

5 事業所の温室効果ガス排出量  
 (1) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>)

		基準年度	計 前 画 年 提 出 度	計画期間		
		2018年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
CO <sub>2</sub>	エネルギー起源CO <sub>2</sub>	目標		3,029	2,965	2,901
		実績	2,770			
	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>	目標		0	0	0
		実績	0			
	CO <sub>2</sub> の合計	目標		3,029	2,965	2,901
		実績	2,770			
その 他 温 室 ガ ス	メタン	目標		0	0	0
		実績	0			
	一酸化二窒素	目標		0	0	0
		実績	0			
	ハフルオロカーボン	目標		0	0	0
		実績	0			
	パフルオロカーボン	目標		0	0	0
		実績	0			
	六フッ化硫黄	目標		0	0	0
		実績	0			
	三フッ化窒素	目標		0	0	0
		実績	0			
	その他温室効果ガス合計	目標		0	0	0
		実績	0			
温室効果ガスの合計		目標		3,029	2,965	2,901
		実績	2,770			
基準年度：2018年度比 削減率		目標		11.3%	13.1%	15.0%
		実績	18.8%			

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況

CO<sub>2</sub>換算 (t-CO<sub>2</sub>/指標)

エネルギー起源CO <sub>2</sub>		単位	計 前 画 年 提 出 度	計画期間		
			2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位	単位	目標				
		実績				
温室効果ガスの合計排出量原単位	単位	目標				
		実績				
基準年度：2018年度比 削減率		目標				
		実績				
活動規模の指標						

※〇〇には活動規模の指標となる単語を記入してください。  
 例： m、t、百万円 など

## 6 環境負荷の現状

(1) 環境保全の取組のチェック(『取組チェック』)の結果

項目	①CO <sub>2</sub>	②廃棄物	③輸送	④製品開発	⑤グリーン購入	⑥環境教育
達成率	71.4%	86.7%	60.0%	40.0%	20.0%	80.0%

(2) 環境への負荷のチェック(『負荷チェック』)の結果

① 必須項目

- 二酸化炭素排出量  
様式③-3「5 事業所の温室効果ガス排出量」のとおり

● 廃棄物処分量

項目	2023年度	
廃棄物処分量	t/年	454.16
原単位(生産量当たり)	t/t	0.01

## 7 具体的な取組の内容

(1) 必須項目

二酸化炭素排出量の低減のための取組

1) 循環冷却水(工程水)

チラーユニットの入れ替え及び温度設定遵守(15℃により電気使用量削減)/深夜電力利用の運転を優先。冷水需要量に応じ、昼間の運転を台数制御。

2) 反応及び配合時間の削減(動力使用時間の削減)

無駄な運転を止め、節電に努める。/スケールアップにより生産回数を減らし、生産効率アップを図る。

3) 節電の徹底

触媒燃焼脱臭装置の運転最適化を実施。/照明のLED化/環境巡視: 休息中等の消灯チェックを実施。

前年度から二酸化炭素排出量が増減した理由

生産量の減少に伴い若干ではあるがCO<sub>2</sub>排出量も減少した。

廃棄物処分量の低減のための取組

1) 廃水処理により発生する汚泥の削減

排水処理量の削減活動(無駄な水の流出防止、洗浄機の使用時間短縮等)

2) 産業廃棄物の減量及びリサイクル促進

## 8 公表の方法

・場所 サイデン化学(株)東京工場受付:さいたま市桜区大字下大久保1280-1  
ホームページ: <http://www.saiden-chem.co.jp/>

・日時 8:30~17:30(休日及び休業日を除く)

・連絡先 サイデン化学(株)品質保証部 TEL. 048-852-1711

## 9 温室効果ガス排出量の削減率の公表

公表の可否 公表可

公表不可の理由

# 様式④ 取組チェックシート

## <項目①：CO2(二酸化炭素)等の排出抑制>

注意

### 1 環境負荷の少ない燃料の使用

○	エネルギー	都市ガス、灯油、電気等の環境負荷の少ないエネルギーを優先的に購入、使用している
---	-------	---

### 2 日常業務の管理に当たっての配慮

○	空調	空調の設定温度を冷房28℃程度、暖房20℃程度に設定し、必要な区域・時間に限定している
—	E V	エレベータの適正使用を徹底している
○	給湯	保温性の高いボットの使用など給湯の適正管理を行っている

### 3 省エネルギー型の設備・機器の使用

×	断熱	二重窓、複層ガラスの設置等により建物の断熱性能を向上させている
○	照明	LED照明、高効率蛍光灯などの照明機器を導入し、使用しないときは消灯したり人感センサ（点滅・調光）などで効率的に使用している
○	空調	ヒートポンプ、氷蓄熱、ガスコジェネなど省エネルギー型の空調設備の採用、配管の断熱化の向上など積極的に推進している
×	空調	COセンサ等による換気効率改善、空調機等のインバータ制御を導入している
—	給湯	給湯設備において、高効率機器の採用や配管等の断熱化等により省エネルギーを進めている
○	節水	節水コマ、自動水栓などによる節水を行っている
○	OA	コピー機、パソコン、プリンタなどOA機器について、エネルギー効率をチェックし、効率の高い機器を積極的に導入している
—	E V	省エネルギーのエレベータを導入し、夜間部分停止など適正に運用・管理している

### 4 生産プロセスの管理に当たっての配慮

○	熱	ボイラー等において、低空気比運転等の熱管理を徹底している
○	熱	ボイラー等の廃熱の利用を行っている
○	電気	インバータ等によるモータの回転数制御や電力不要時の負荷遮断、変圧器の遮断を行っている

### 5 自然エネルギー・未利用エネルギーの利用

—	熱	太陽熱給湯システム等による太陽熱エネルギーの給湯・空調等への活用
×	電気	太陽光発電システムによる太陽光エネルギーの発電への利用
×	電気燃料	食物残渣、廃食油等の廃棄物のバイオマスエネルギー利用

チェック欄数: 18

達成率 71.4%

＜項目②：廃棄物の排出抑制、リサイクル、適正処理＞

1 紙の使用量の抑制(再生紙については「項目⑤グリーン購入」で回答)

○		両面印刷、両面コピー、複数頁印刷等による会議資料等の事務文書のスリム化に取り組んでいる
○		使用済み封筒の再利用をしている
○		電子メディアの利用によるペーパーレス化に取り組んでいる

2 廃棄物の発生そのものを抑える取組

△		リターナブル容器（ビール瓶、一升瓶等）やリサイクルしやすい製品を積極的に導入・使用し、廃棄物排出の抑制に取り組んでいる
○		コピー機、パソコン、プリンタ等について、リサイクルしやすい素材を使用している製品を採用している
○		詰め替え可能な製品の利用や備品の修理などにより、製品等の長期使用を進めている

3 オフィス等におけるリサイクルの促進

○	分別	紙、金属缶、ガラス瓶、プラスチック、電池等について、分別回収ボックスの適正配置などにより、ごみの分別を徹底している
○	分別	回収した資源ごみが正しくリサイクルされるように確認している
○	管理	コピー機、プリンタのトナーカートリッジの回収とリサイクルを進めている
—	管理	可能な限り食品残渣を堆肥にしたり廃食用油は石鹸等で再利用して、ハイオマスエネルギーとして活用している
○	管理	包装・梱包の削減やリサイクルに取り組んでいる

4 出荷・販売等の際しての梱包等に関する配慮

○	包装	環境負荷の少ない梱包材・包装材を使用し、リサイクルしやすい容器・製品の出荷・販売に取り組んでいる
△	回収	紙バック、食品トレイ、アルミ缶、スチール缶、ペットボトル等の店頭回収・リサイクルに取り組んでいる
○	輸送	配送ルート、時間帯等に配慮し輸送に伴う環境負荷の低減に努めている
—	管理	食品などについて、適正な在庫管理に努め廃棄物や過剰在庫によるエネルギー消費の削減などに努めている

5 生産工程における取組

○		工程から発生する金属くず、紙くず、廃液などの回収・再利用のための設備を設置し、活用している
---	--	---

6 産業廃棄物等の適正処理

○		産業廃棄物、有害廃棄物、医療廃棄物等をマニフェストやリストを作成して、廃棄物の適正処理を確認している
---	--	--

チェック欄数:17

達成率 86.7%

＜項目③：輸送に伴う環境負荷の低減＞

1 車両の購入・選択に当たっての配慮

○		電気自動車、圧縮天然ガス（CNG）車、ハイブリッド車、低燃費車、低排出ガス認定車等の低公害車の購入・選択に取り組んでいる
—		自社の必要輸送量に対して適性な規模の車両の購入・選択を行い過積載、過少積載等の非効率な輸送の防止に努めている

2 モーダルシフト(自動車輸送から鉄道、海運へのシフト)の推進

×		主に大量・遠距離等の輸送は、鉄道や海運など環境負荷の少ない輸送手段を利用している
×		近距離の移動・事務的連絡等は、徒歩・自転車・電動アシスト自転車等の環境負荷の少ない移動手段を利用している

3 輸送の合理化・輸送方法の工夫

○	計画	最大積載量に見合った輸送単位の設定を行っている
—	計画	共同輸配送、帰り荷の確保に取り組んでいる

4 自動車の使用に当たっての配慮

○	点検	タイヤの磨耗状況や空気圧等の出発前点検、プラグやオイルの定期的点検など、正しい性能が確保できるよう車両を常に整備している
---	----	--

チェック欄数:7

達成率 60.0%

＜項目④：製品の開発・設計等における環境配慮＞

1 製品(プライベートブランド商品を含む)設計に当たっての環境配慮

—	製品の小型化、軽量化または長寿命化を図っている
—	再生資源の積極的利用に取り組んでいる
—	リサイクルしやすいような素材・簡易な構造を指向し、部品等にその表示を行っている
○	自社独自の環境保全型商品等の開発に積極的に取り組んでいる
—	生産工程の省エネルギー化のため、部品点数の削減や共用化を図っている

2 製品の出荷、販売後における環境負荷の削減

—	フロン類の回収に取り組んでいる
—	交換・修理部品の長期的な確保に自主的に取り組んでいる
—	販売後のメンテナンスやリース方式など、製品の長期使用に向けたサービスを展開している

3 製品(プライベートブランド商品を含む)に係る製品アセスメント等

×	自社製品及び社外から購入する部品等について、想定される環境負荷のチェックリストを作成している
×	新製品開発、モデルチェンジ等にあたり、環境負荷の測定・記録や製品アセスメント(製品が廃棄物になった場合の適正処理困難性の評価、製品を生産～消費～廃棄にいたる各段階での環境負荷の評価(ライフサイクルアセスメント=LCA等を含む))を実施している
×	既存製品についても、計画的に製品アセスメント等を実施している
○	外部から製品の環境負荷に関するデータの提供依頼があった場合、協力している

4 環境保全型商品等の販売及び消費者に対する情報提供

—	再生資源を使用した商品、再生可能な商品、繰り返し使える商品、省資源、省エネルギー型の商品、容器包装を簡素化した商品、エコマーク製品等を重点的に販売している
—	販売のときに、消費者等に製品の環境保全に関する情報を積極的に表示している

チェック欄数:14

達成率 40.0%

＜項目⑤：グリーン購入＞

1 再生紙の使用

△	コピー用紙、コンピュータ用紙、伝票・ノート・事務用箋等、封筒、名刺その他の紙について、再生紙・間伐材等の未利用繊維などを用いた製品を利用している
---	--

2 その他環境に配慮した物品等の購入、使用

△	エコマークの付いた商品の購入に努めている
—	木材の調達にあたり、跡地の緑化・植林・環境修復が適切に行なわれていることに配慮し、または跡地緑化等に協力している、または当該環境配慮を行なっている事業者から調達している
△	無漂白製品(衣料品)、水性塗料等の環境への負荷の少ない製品を優先的に購入、使用している

3 環境に配慮した物品等の調達に係る基準等

△	環境に配慮した物品等の調達に係る基準・リストを作成し、現状に合わせて見直しを行っている
○	原料・中間材の購入に当たって環境配慮のチェックを行っている

チェック欄数:6

達成率 20.0%

＜項目⑥：環境教育、環境保全のための仕組みの整備＞

1 環境保全に関する職員等への教育、意識の向上

○	職員等に環境意識の向上や、環境保全活動に必要な教育を行う計画を定めている
○	委託・協力会社などの職員等についても、必要な知識、能力等を保有するよう、対応をとっている

2 職員等の自主的なボランティア活動に対する支援

×	環境に関する研究や活動を行っているサークル等に対する支援を行っている
---	------------------------------------

3 法規制等への対応

○	法規制等の最新情報を常に入手している
---	--------------------

4 環境対応のための組織体制整備

○	環境経営システムを実行するに当たり役割分担や責任、権限などが明確に定められている
---	--

チェック欄数:5

達成率 80.0%